



北部軍司令官官邸であった「つきさぶ郷土資料館」

地区特集 2 回目は、月寒地区です。

岩手県人の入植に始まり、軍隊の駐屯や町役場の移転などで発展した月寒地区では、地域の歴史を伝えていく取り組みや、地域と学校が協力した取り組みが盛んです。

今回は、「つきさぶ郷土資料館」、「親子ふれあいコンサート」を紹介します。

特集

とよひら再発見! 月寒を訪ねて

つきさぶ郷土資料館は、昔の生活や、戦争中のことを知ってもらうには、とても良い施設です。皆さん、ぜひお越しください。



「つきさぶ郷土資料館」
副館長 あきもとやすみ 秋元靖巳 さん

月寒の歴史を未来に伝える「つきさぶ郷土資料館」

「つきさぶ郷土資料館」の建物は、昭和16(1941)年に北部軍司令官の官邸として建築されたレンガ造りの洋館です。戦後は北海道大学の月寒学寮として昭和58(1983)年まで使用されていたものを、札幌市が譲り受け、昭和60(1985)年に資料館として開館しました。運営は月寒地区町内会連合会が行っています。

館内には、開拓時代からの生活や文化にかかわる品約4,000点が「農耕・林業」、「生活」、「旧軍隊」、「古文書」の4部門に分け展示されています。

月寒が陸軍の駐屯地であったという歴史から、軍隊に関する展示品が多いのが特徴で、戦争当時の状況を今に伝える貴重な資料となっています。



資料館の運営を支える皆さん

町内会連合会が運営

地域の歴史を若い世代に伝える郷土資料館の開設は住民の悲願でした。現在でもその思いは月寒地区町内会連合会の運営部会に受け継がれています。

部員の皆さんは、資料の収集、研究、管理、修繕や来館者の案内などをボランティアで行っています。

住所 月寒東2条2丁目3-9 ☎854-6430
開館日時 4月～12月の第一週までの水・土 曜日午前10時～午後4時
交通 東豊線「月寒中央」駅下車1番出口から徒歩12分

